

| 特集 |

まちづくり・ひとづくり

CONTENTS

[View of This issue]

- 01 街をつくる津市と、ひとをそだてる三重大学。
●理事・副学長 | 野村由司彦

[特集 / 対談]

- 02 まちづくり・ひとづくり
●津市長 | 松田直久 + 学長 | 内田淳正
司会 | 理事・副学長 | 鈴木宏治

[RESEARCH FRONT]

- 08 官と民、若者と高齢者が結びつく持続的なまちづくりを目指して。
●人文学部准教授 | 石坂督規
- 10 生活習慣病やメタボ予防に役立つ、運動実践の効果を研究。
●教育学部教授 | 富樫健二
- 12 地方都市再生のための協働型まちづくり・ひとづくりプロジェクトを実践する。
●大学院工学研究科准教授 / 美(うま)し国おこし・三重さきもり塾副塾長 | 浅野 聡
- 14 持続的農業経営と食の安定供給の確立に向けた戦略づくり。
●大学院生物資源学研究科准教授 | 内山智裕

[CLOSE-UP Interview]

- 16 三重県に愛着を持ち地域医療を支えていく医者を育てたい。
●大学院医学系研究科教授 | 堀 浩樹

[連載] CHRONICLE OF MIE VOL.6

- 18 【文学編】作家・尾崎一雄。日本文学における私小説の主脈。
●人文学部教授 | 尾西康充
- 20 【美術編】「大王岬に打ち寄せる怒濤」
●教育学部教授 | 山口泰弘

[三重大学の目指す社会連携⑤]

- 22 知的財産統括室
三重大学の発明者人口を拡大し、研究成果を社会へ還元する。

23 TOPICS

- 24 2010年1月～5月 三重大学の主な出来事



街をつくる津市と、
ひとをそだてる三重大学。

理事・副学長(教育担当)
野村由司彦

まず、数字を見てみよう。三重大学の教職員の約2/3、1,200人、そして学生のほぼ半分、約3,300人が津市内に居住している。市の人口は約29万人なので、約2%に相当する。また、『地方大学が地域に及ぼす経済効果分析報告書』[(財)日本経済研究所・2007年]によれば、大学の活動による津市の税収効果は約2億円、生産誘発額は約286億円に上るといふ。それぞれ、津市の歳入額の2.2%、総合・製造品出荷額の2.9%に相当する。この2~3%という数字、企業であれば研究開発投資額や利益の売上高比と同等であり、津市における三重大学の経済面のインパクトは相当に大きい。数字など挙げずとも、津市や三重県の教育・研究・医療・文化にとって、三重大学の貢献と責任が極めて大きいことは言うまでもない。今回の松田市長と内田学長の対談では、「津は山紫水明に恵まれ、食べ物もおいしい、住みやすい街である」と語られていた。私も同感だ。名古屋から居を移してみると、名古屋はもちろん、関西圏にも気軽に行ける。新しい津市になってからは榊原温泉や美杉がある。足を伸ばせば北に鈴鹿の山、西は伊賀の里、南は伊勢と、どちらへ行っても日本有数の観光県三重を堪能できる。しかも、市街地には県庁を擁して行政機関も集積し、偕楽公園や津城址など歴史にも恵まれている。市長は対談で「生活が市内で完結できる街を目指そう」とおっしゃっておられたが、それに通ずる大学院生のレポートを一部紹介したい。

「津市の北方には、三重大学…などのような多数の若者を集める教育機関が多いし…。現在、津駅の周辺に集客力をもった飲食店が非常に増えている。…ファッションストリートを形成し、そのお洒落なイメージで遠近から顧客を引き寄せべきだと思う」[呉紅再「魅力的な都市への契機」、『トリオ』Vol.11より]。このような意見は、地域および学生主体の問題発見解決型を特色とする、人文社会科学研究科による授業「三重の文化と社会」の成果でもあり、ひとづくりの三重大学とまちづくりの津市とが一体であると再認識できる。

のむらよしひこ
工学博士
専門分野は、コンピュータビジョン、
人工知能、情報処理、ロボット工学

